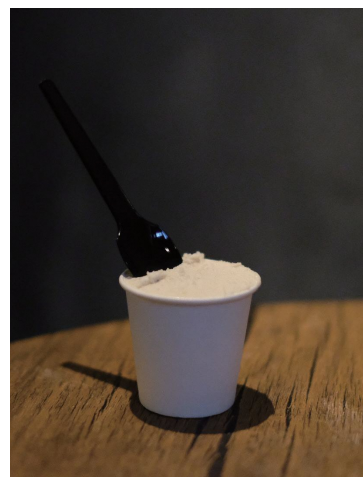


加茂の、 まちあるき

青海神社
大湊文吉商店
加茂紙 澁場
清雲亭 山重
G.F.G.S.
AMEYA AISU



小京都だけじゃない、新しさも共存するまち

1,000年以上の歴史を誇る

青海神社



加茂市民にとってなくてはならない存在の青海神社。726年に青海郷を開拓した青海首一族が、祖神椎根津彦命を加茂山山麓にまつり、青海神社を創建した。その後、794年に京都賀茂神社の社領となり、御分霊を併せまつたことで「加茂」の名がついたといわれる。



伝統工芸「屏風」と組子細工を学べる

大湊文吉商店



屏風と組子細工のものづくり企業
屏風や仏具、パーテーションなど木と紙を組み合わせて幅広い種類の商品を製造・販売している。屏風を一貫生産できる会社は全国で加茂市内の2軒だけ。現在は洋風の居住空間にも合う屏風も多数製造している。



組子細工のワークショップ
小さく裁断・加工された組子細工を使って、自分だけのオーナメントをつくる。接着剤を一切使わずに秋田杉を使った組子を組み合わせて、木槌で叩いて成型していく。

ちょっと小話



794年に京都賀茂神社が青海神社を社領としたときに京都から多くの宮大工が移り住み、木工建築を伝承（諸説あり）。加えて、県内有数の和紙の生産地だったことから、建具と和紙が必要な屏風がつくられるようになった。

県内有数の和紙の生産地だった

加茂紙 漉場



明治から大正にかけて県内随一の和紙の産地として有名だった加茂市七谷地区。今では和紙をつくる家庭はなくなったが、紙漉き技術の継承のため、市が事業を立ち上げ、商店街内にある加茂の和紙をつくる「加茂紙 漉場」を開設した。

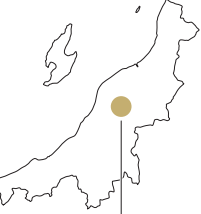


見学

紙漉きの一連の流れ、材料となる楮(こうぞ)の皮を剥く工程を見学。



新しさも共存するまち、小京都だけじゃない、



新潟県
加茂市

江戸後期創業の老舗料亭で旬を味わう

清雲亭 山重



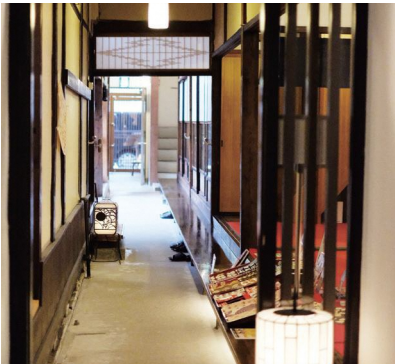
純和風の空間と真心込めた料理とおもてなしで人々を魅了する老舗料亭。



この日のランチメニュー。県内外からおいしい食材を取り入れ、旬を重視した品揃えで、四季折々の加茂山の景色を見ながらいただく料理は格別だ。



大正時代につくられた蔵をリノベーションした和モダンな「山重 仲町通店」は、現在YamaCafeとして営業中。



ニットの産地・加茂で自社ブランドを立ち上げた

G.F.G.S.



縞模様のボーダーカットソー「ORDER BORDER(オーダーボーダー)」を製作する「G.F.G.S.」。注文を受けてから、自社工場で1着ずつ生地編み立てをしていく。完全受注生産とすることで、過剰な生産を行わず、ロスのない供給を整えている。

2021年4月～
土産物センターで
ゲストハウスやカフェなど
新しい企画を計画中。



あずきアイスを復活させた人気アイス店

AMEYA AISU



130年以上続く青木飴屋の5代目 捧泰士さんが立ち上げたアイス店。おすめは、数十年前まで青木飴屋で販売されていた「あずきアイス」。地域住民の熱望の声もあり、あずきアイスを復活させた。



不定期で夜営業も行っており、お酒やコーヒーとアイスを片手に他の人との交流を楽しむ場となっている。



／ 加茂市って、どんなところ？

京都の賀茂神社にその名を由来し、「北越の小京都」と呼ばれる加茂市。街の中心部には加茂川が流れ、JR加茂駅から徒歩5分の場所に加茂山があるなど、自然と一体になった街。新潟県のほぼ中央に位置し、新潟市や長岡市、新幹線駅「燕三条駅」へのアクセスも良好。加茂の桐たんすは、全国シェア7割を占め、伝統的工芸品の指定を受ける。

ホームページ <https://www.city.kamo.niigata.jp/>



!! 加茂駅までのアクセス

電車  新潟駅から加茂駅までJR信越本線で約40分、JR燕三条駅から車で約20分

車  北陸自動車道 三条燕ICから約20分



発行日	2021年 3月
発行元	加茂市企画財政課企画調整係
問合せ先	0256-52-0080